

船場城西 まちづくりかわら版

◇話題満載のHP! ⇒ <http://www.himesen.com/>
こちらをご覧ください。(右下にスマホ用リンク・QRコード有)

himesen

検索



特定非営利活動法人 **歴史と出会うまちづくり船場城西の会**

事務局●下山裕史 〒670-0035 姫路市琴岡町 266-1 tel:090-3351-7965 fax:079-296-0738

船場御坊幼稚園 こども花祭り 2016



4月30日(日) 創立100周年記念「花まつり」が行われ、当会員も参加し白象と一緒に歩きました。

第55回 ♡♡ 船場御坊楽市



5月1日(日) 五月晴れで、素晴らしい天気の中で楽市を開くことができ、楽しい時を過ごせました。

平成の寺子屋 こども論語塾

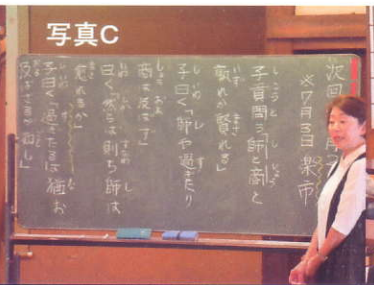


写真A/白書院

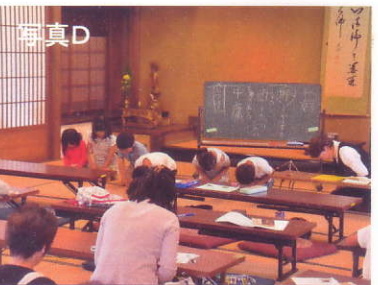


写真B

開催場所は、本堂の裏側(北西)にある「白書院」です。



写真C



写真D

6月4日(土) に行われた「こども論語塾」です。「こども」と付いていますが大人の参加者もだんだん増えてきています/写真B。山崎先生が「論語」を解り易く説明します/写真C。そして論語塾は「礼」で始まり、「礼」で終わります/写真D。



6月5日(土) 第7回の総会を「新北京」にて行い、前年度報告と、今年度計画等を確認しました。



6月5日(土) 総会の後 同じ場所、今年の活動の成功を願ってみんなで祝杯を揚げました。



6月12日(日) 西まちやで地域の先生方と地域の歴史・文化と教育について意見交換をしました。

【その他活動記録】

- ・6/5 平成27年度の市との提案型協働事業の報告をしました。
- ・6/14 当年度 中播磨地域づくり活動支援の為のプレゼンテーションを行いました。その結果、当会事業活動への助成決定。
- ・6/12 西まちやワークショップで、室内の掃除と暖房器具と扇風機の入替えをしました。

2016年 活動予定

◇船場御坊楽市の開催

9月4日(日)、12月4日(日)、3月5日(日) 開催時間 朝9:00~昼12:00

◇平成の寺子屋「こども論語塾」

毎月第1土曜日 10:00~10:45 船場本徳寺内、白書院 参加費:200円

講師: 山崎みどり先生 (姫路生まれ 姫路独協大 外国語学部教授)

当日境内には案内の看板や旗は出していませんが、直接「白書院」にお越し下さい。

◇講演会「千姫物語」講師:富士本 健 氏(播磨学研究所事務局長)

8月6日(土)13:00~14:00 船場本徳寺内白書院 費用:無料 定員:70名

会費納入のお願い

平成28年度の年会費(1000円)の納付をお願い致します。事務局、楽市受付、又は振込みで、

(船場城西の会 HP スマホ用リンク・QRコード) ⇒



船場城西の会 HP

(白書院の位置

スマホ地図

QRコード) ⇒



船場・城西－温故知新

毎号に少しずつですが、昔の船場、城西の景観等、その当時の資料を掲載していきます。
 今は修復された姫路城が目立っていますが、姫路はお城だけではなく、他にも多くの歴史が詰まった街です。
 私たちの街の昔の歴史がわかると、今の街並みももっと輝いて見えてきますよ。

シリーズ⑤ 船場・城西の中の「播磨風土記」十四丘

「播磨風土記」十四丘の現在推定地



・当会で行った「播磨風土記ウォーク」の様子
 薬師山(船丘)から景福寺山(琴丘)と小部山(波丘)を望む

播磨国風土記 十四丘(推定地)

風土記の丘	糸田恒雄氏説 (地元歴史家)
因達神山(いだてのかみやま)	廣峯山
手刈丘(てかりおか)	手柄山
1 船丘(ふなおか)	薬師山
2 波丘(なみおか)	小部山
3 琴丘(ことおか)	景福寺山
4 笥丘(箱丘)(はこおか)	男山
5 匣丘(くしげおか)	船越山
6 箕丘(箕形丘)(みおか)	秩父山
7 蕤丘(みかおか)	神子岡山
8 稲丘(稲牟礼丘)(いなおか)	青葉山
9 冑丘(かぶとおか)	冑山
10 沈石丘(いかりおか)	名古山
11 藤丘	サンマイ山
12 日女道丘(ひめじおか)	姫山
13 鹿丘(しかおか)	薬王子山
14 犬丘	土山

「播磨国風土記」は約千三百年前の奈良時代(和銅六年/712年)に朝廷が、全国へ地勢報告書を求めた通達「地名とその由来、土地の豊かさ、産物、伝承などを調べて報告せよ」に基づき作成されたものです。このうち、残されているのは五ヶ国(播磨国【兵庫県】、常陸国【茨城県】、出雲国【島根県】、肥前国【佐賀県】、豊後国【大分県】)だけです。

「播磨国風土記」には、まだ神々がおおらかに野を駆けていた播磨の大地のようす、まるで人と神の叙情詩のような世界が広がっています。また当時の古代人の「装い」や「食」等の生活のようすが書かれ、古代播磨のいきいきとした暮らしがそこから伝わってきます。

この十四の丘ことは、この中の「飾磨の郡(しかまのこおり)」の「伊和の里(いわのさと)」の部分に書かれています。推定も含まれますが、これら丘が、私たちが住んでいる身近な場所にあることや、その地域に当時から人々の営みがあり、その様子がこの古い文献に記録されていることに驚かされます。この風土記を読んで、私たちの地域の千三百年前の様子に思いをめぐらしてみませんか。

参考文献 「播磨国風土記」を楽しむ 神戸新聞総合出版センター

・播磨国風土記ものがたり 兵庫県播磨広域連携協議会 等